

大網白里特別支援学校の地域支援について

県立大網白里特別支援学校教諭 河名 俊かわな しゅん



1 本校について

本校は平成27年4月1日に旧白里高等学校施設に県立大網白里特別支援学校として開校した。学校教育目標「児童生徒一人一人の自立と社会参加を目指し、自分らしく豊かに生きる力を育む」の下、知的障害または肢体不自由のある児童生徒が通う特別支援学校である。小学部、中学部、高等部の三学部が設置されており、高等部には普通科と職業コースが設けられている。そして、平成29年10月に策定された第二次千葉県特別支援教育推進基本計画で、本校は東上総地区において、総合的な教育機能を有する特別支援学校として位置付けられた。また、平成29年度からは「からだ（肢体不自由）」「きこえ（難聴）」「見え方（弱視）」の「通級による指導」を開始した。現在は、東上総地区の特別支援教育のセンターの役割を担う同地区内の4校（東金、大網白里、長生、夷隅）で連携を図りながら、教育相談や地域支援等の様々な要望にも対応している。

2 本校のセンター的機能について

本校の支援部は、「校内支援」「地域支援」「通級による指導」の三点を柱（運営目標）にして活動している。そして、これらを通して、特別支援教育の推進のために校内及び地域への支援の充実とつながることを目指している。今回はこの三点の中から「地域支援」と「通級による指導」の二点について紹介する。

一つ目の「地域支援」は、本校の学区内（2市2町である大網白里市、茂原市、九十九里町、白子町）への支援はさることながら、通級による指導の対象地域である東上総教育事務所管内17市町村（きこえ・見え方の通級による指導は、横芝光町の光地区を除く、からだの通級による指導は夷隅特別支援学校が令和3年度から開始しているために夷隅地区も除く）においてもセンター的機能の充実を目指し、関係機関と連携して特別支援教育推進のための支援を行っている。主な活動は以下のとおりである。

- 地域の相談支援
- 地域連携支援体制作り
- 教育相談
- 関係機関との連携
- 理解啓発活動、講師派遣
- 研修会の企画、実施

令和3年度は、地域の相談支援活動として、「きこえ・見え方の相談会」に参加しやすいように地域の施設を利用して、感染症対策を十分に行いながら8月に山武地区（山武市）、長生地区（睦沢町）、夷隅地区（いすみ市）の3か所で開催した。開催地については、地区内で3年ごとに変更している。

二つ目の「通級による指導」とは、小・中学校の学習指導要領にも書かれているとおり、障害のある児童生徒に対して、障害に応じた特別の指導を特別の場で行う教育の形態である。本校ではからだ、きこえ、見え方の通級による指導を通して、地域の小・中学校に在

籍している児童生徒自身が、学校生活をいきいきと過ごし、主体的に社会へ参加し自立していくことができるように支援を行っている。本校では、からだ1名、きこえ15名、見え方3名の計19名が通級による指導を希望して学習している（※令和3年10月現在）。本校の通級による指導では、在籍校や保護者、関係機関と連携し、在籍校訪問や障害理解授業等を通して、通級生自身と周囲の障害認識を深め、環境を整えていくことを指導・支援方針の重点としている。

3 本校の通級による指導（きこえ）について

指導・支援内容については、障害に応じた自立活動に関することを中心に扱っているが、今回はきこえでの実際の指導内容をいくつか紹介する。

(1)聴覚学習：補聴器の管理について

自分の補聴器メーカーや色、イヤモールドの色などについて調べたり、そうじ（手入れ）の仕方を学習したりしている。

(2)コミュニケーションの学習：こんな時には何と言えばよい？

困っている場面を絵や写真等で提示し、吹き出しを見て、周囲へどのようなお願い（確認）の仕方をすればよいのか等を学習している。

(3)自己認識に関する学習：障害理解授業（難聴理解授業）を実施するための準備

自分自身のきこえ方（難聴の程度）や友達に対して、どのように話してほしいかや関わってほしいか等を、在籍校で授業として発表するための準備をしている。障害理解授業は、在籍校への訪問（在籍校訪問）と併せて実施している。

また、本校では、コロナ禍のために休校していた時期からオンライン体制を整えて、学

習を継続できるように取り組んできた。きこえでのオンラインに関する指導内容も併せて紹介する。

(4)本校と在籍校でオンラインを利用した通級による指導

月に1回のペースで実施している。指導で使用する資料等は、在籍校に事前にメールで送り、当日までに準備していただいている。在籍校の先生方に接続確認をしていただき、指導を実施している。

(5)オンラインでのグループ学習等の実施

（令和2年度まとめの会、令和3年度冬季グループ学習）

令和2年度、オンラインで通級生が一斉に顔を合わせる機会をまとめの会として設定した。一年間で頑張ったことや学んだこと等を作文にして発表した。令和3年度は、冬季グループ学習を冬期休業中に実施し、オンラインで手話ソングを一緒に歌ったり、ゲームなどを行ったりした。

4 今後に向けて

通級による指導を実施していく上で、特に大切になるのが、関係する市町村教育委員会との連携である。市町村教育委員会には、サテライト教室の設置など数多くの支援をいただいている。通級による指導で学習している児童生徒が、在籍校を中心に地域でよりよく生活していくためにも、このような連携はとても重要になる。

本校で通級による指導が開始されて、今年で5年目を迎えている。今後も地域に根ざした本校にできる支援を様々な形で継続していきたいと思っている。そして、障害の種類に応じた専門性の高い教育がどの地域でも受けられるように教育活動の充実を目指していきたい。